

# 数学演習第一 (演習第2回)

線形：平面の方程式, 行列の演算

2019年5月8日

1 【空間内の直線と平面】 (線形教科書 pp.10-13 参照) 以下では, 点  $(x_0, y_0, z_0)$  とその位置ベクトル  $\mathbf{x}_0 = {}^t(x_0, y_0, z_0)$  を適宜同一視する.

① 点  $\mathbf{x}_0 = {}^t(x_0, y_0, z_0)$  を通り,  $\mathbf{a} = {}^t(a, b, c)$  を法線ベクトルとする平面 ( $\mathbf{a}$  と垂直な平面) の方程式は

$$\mathbf{a} \cdot (\mathbf{x} - \mathbf{x}_0) = 0 \quad \text{あるいは} \quad a(x - x_0) + b(y - y_0) + c(z - z_0) = 0.$$

(右の表現は通常  $ax + by + cz + d = 0$  または  $ax + by + cz = d$  の形に整理する.)

② 点  $\mathbf{x}_0 = {}^t(x_0, y_0, z_0)$  を通り,  $\mathbf{a} = {}^t(a, b, c)$  を方向ベクトルとする直線 ( $\mathbf{a}$  と平行な直線) の方程式は

$$\mathbf{x} = \mathbf{x}_0 + t\mathbf{a} \quad \left( \Leftrightarrow \begin{cases} x = x_0 + at \\ y = y_0 + bt \\ z = z_0 + ct \end{cases} \right) \quad \text{あるいは} \quad \frac{x - x_0}{a} = \frac{y - y_0}{b} = \frac{z - z_0}{c}.$$

( $t$ : 媒介変数)

(右の表現は  $abc \neq 0$  の場合の形. 例えば  $a = 0, bc \neq 0$  なら,  $x = x_0, \frac{y - y_0}{b} = \frac{z - z_0}{c}$  となる.)

- (1) 点 A(3, 1, -2) を通り,  $\mathbf{a} = {}^t(1, -2, 3)$  を法線ベクトルとする平面 (以下, 平面  $P$  と呼ぶ) の方程式を求めよ.
- (2) 2点 B(1, 2, -1), C(3, -1, 0) を通る直線 (以下, 直線  $l$  と呼ぶ) の方程式を求めよ. 更に, 平面  $P$  と直線  $l$  の交点を求めよ.  
【ヒント】直線  $l$  を媒介変数表示し, 平面  $P$  の方程式に代入せよ.
- (3) 点 B から平面  $P$  に垂線 BH を下ろすとき, 点 H (垂線の足) の座標と垂線 BH の長さ (点 B と平面  $P$  との距離) を求めよ.
- (4) 点 A から直線  $l$  に垂線 AK を下ろすとき, 点 K (垂線の足) の座標と垂線 AK の長さ (点 A と直線  $l$  との距離) を求めよ.
- (5) 《参考問題》 (余裕のある学生用)

① ①の平面に点  $\mathbf{x}_1 = {}^t(x_1, y_1, z_1)$  から垂線を下ろすとき, 垂線の足は  $\mathbf{x}_1 - \frac{\mathbf{a} \cdot (\mathbf{x}_1 - \mathbf{x}_0)}{\|\mathbf{a}\|^2} \mathbf{a}$  であり,  $\mathbf{x}_1$  と平面との距離 (垂線の長さ) は  $\frac{|\mathbf{a} \cdot (\mathbf{x}_1 - \mathbf{x}_0)|}{\|\mathbf{a}\|}$  (平面が  $ax + by + cz + d = 0$  と表されるなら  $\frac{|ax_1 + by_1 + cz_1 + d|}{\sqrt{a^2 + b^2 + c^2}}$ ) であることを示せ.

② ②の直線に点  $\mathbf{x}_1$  から垂線を下ろすとき, 垂線の足は  $\mathbf{x}_0 + \frac{\mathbf{a} \cdot (\mathbf{x}_1 - \mathbf{x}_0)}{\|\mathbf{a}\|^2} \mathbf{a}$  であり,  $\mathbf{x}_1$  と直線との距離 (垂線の長さ) は  $\frac{\sqrt{\|\mathbf{a}\|^2 \|\mathbf{x}_1 - \mathbf{x}_0\|^2 - |\mathbf{a} \cdot (\mathbf{x}_1 - \mathbf{x}_0)|^2}}{\|\mathbf{a}\|}$  ( $= \frac{\|\mathbf{a} \times (\mathbf{x}_1 - \mathbf{x}_0)\|}{\|\mathbf{a}\|}$ ) で与えられることを示せ.

2  $A = \begin{bmatrix} 2 & 3 \\ -1 & 0 \\ 1 & -1 \end{bmatrix}, B = \begin{bmatrix} -1 & 1 \\ 0 & 2 \\ 2 & 3 \end{bmatrix}$  のとき, 次の行列を求めよ: (1)  $-A$ , (2)  $2A + 3B$ , (3)  $2X + 3A = 4B$  を満たす行列  $X$ .

3 (演習書) 問題 8.1.1 (1), (2), (3), (4) の行列  $A, B$  に対し, 積  $AB, BA$  が定義されるなら計算せよ.

4 (演習書) 問題 8.1.1 (3) の行列  $A, B$  に対して, 転置行列  ${}^tA, {}^tB, {}^t(AB)$  を求めよ. 更に, 積  ${}^tB{}^tA, {}^tA{}^tB$  を求めよ.

5  $A = \begin{bmatrix} -1 & 2 \\ 1 & -2 \end{bmatrix}$  のとき, 次の性質を満たす零行列でない 2 次正方行列  $B$  の例をそれぞれ挙げよ.

- (1)  $AB \neq BA$       (2)  $AB = O$       (3)  $BA = O$

6 (1)  $A = \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix}$  に対して,  $\tilde{A} = \begin{bmatrix} d & -b \\ -c & a \end{bmatrix}$  とおく. このとき,  $A\tilde{A} = \tilde{A}A = (ad - bc)E$  となることを確認し, 次の主張を示せ.

①  $ad - bc \neq 0$  ならば,  $A$  は正則であり, その逆行列は  $A^{-1} = \frac{1}{ad - bc} \tilde{A}$ .      ②  $ad - bc = 0$  ならば,  $A$  は正則でない.

(2) 上の事実を用いて, ①  $\begin{bmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ \sin \theta & -\cos \theta \end{bmatrix}$  の逆行列を求めよ. ② 連立 1 次方程式  $\begin{bmatrix} 7 & 6 \\ 9 & 11 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2 \\ 3 \end{bmatrix}$  を解け.

7 行列  $A = \begin{bmatrix} 6 & -3 & -2 \\ 4 & -1 & -2 \\ 3 & -2 & 0 \end{bmatrix}$  とベクトル  $\mathbf{p}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}, \mathbf{p}_2 = \begin{bmatrix} 2 \\ 2 \\ 1 \end{bmatrix}, \mathbf{p}_3 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix}$  に対して, 以下の問いに答えよ.

- (1)  $A\mathbf{p}_1 = \lambda\mathbf{p}_1, A\mathbf{p}_2 = \mu\mathbf{p}_2, A\mathbf{p}_3 = \nu\mathbf{p}_3$  を満たす実数  $\lambda, \mu, \nu$  を求めよ.
- (2) 3 次正方行列  $P$  が  $P = [\mathbf{p}_1 \ \mathbf{p}_2 \ \mathbf{p}_3]$  と列ベクトル分割した形で与えられているとする. このとき,  $AP = PB$  となる 3 次正方行列  $B$  を答えよ.

8 次の満たす 2 次正方行列  $R, Q_\theta, R_\theta$  を定めよ.

(1) 点  $(x, y)$  を  $x$  軸に関して対称移動した点を  $(x', y')$  とするとき, この 2 点の関係を  $\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = R \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$  の形に書き表せ.

(2) 点  $(x, y)$  を原点の周りに角  $\theta$  だけ回転移動した点を  $(x', y')$  とする. これを複素数平面上で考えれば,  $x' + iy' = (\cos \theta + i \sin \theta)(x + iy)$  と書ける. このとき, 2 点の関係を  $\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = Q_\theta \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$  の形に書き表せ.

(3)  $x$  軸を原点の周りに角  $\theta$  だけ回転移動した直線を  $l_\theta$  とする. 点  $(x, y)$  を  $l_\theta$  に関して対称移動した点を  $(x', y')$  とするとき, 2 点の関係を  $\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = R_\theta \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$  の形に書き表せ. 【ヒント】点  $(x, y)$  を, まず原点の周りに  $-\theta$  だけ回転移動し (この回転移動で  $l_\theta$  は  $x$  軸に重なる), 次に  $x$  軸に関して対称移動し, 最後に原点の周りに  $\theta$  だけ回転移動すれば点  $(x', y')$  が得られる.